

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 9 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2012～2014

課題番号：24683015

研究課題名(和文)国際会計基準のエンフォースメントと戦略的会計専門家教育のあり方に関する実証分析

研究課題名(英文)An archival study on a strategic accounting education for the enforcement of the global accounting convergence

研究代表者

田口 聡志 (Taguchi, satoshi)

同志社大学・商学部・教授

研究者番号：70338234

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、会計基準のコンバージェンスを推進するための会計専門家に対する戦略的会計教育の望ましいあり方を分析することである。分析の結果、1. 会計教育戦略としては米国型と欧州型が考えられるが、そのいずれも曖昧さ回避、ホールドアップ、モラルハザードといった問題を抱えてしまうこと、2. 会計教育の問題は、実は監査制度の品質管理の問題、特に規制主体のあり方と密接に結びついていること、3. それらの問題を克服するカギとして会計専門職大学院制度と資格試験制度との関係の再構築が考えられることなどが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine the best strategy on an accounting education for accountants to enforce the global accounting convergence. The results of our study are as follows: First, there are two strategy for an accounting education; the U.S.-type and the Europe-type, which have the problem about ambiguity aversion, hold-up, and moral hazard. Second, the issues on accounting education are connected to the quality control of audit system. Third, one of the key to overcome those problems is to change the present accounting school system.

研究分野：会計学

キーワード：国際会計 会計教育 公認会計士 監査制度

1. 研究開始当初の背景

近年の国際会計基準 (IFRS) を軸とするコンバージェンスないしアドプションの問題は、現在の会計研究において最重要課題の1つであり、またその是非については賛否両論ある。この問題に対して、研究代表者は、ゲーム理論と実験経済学とを融合した実験比較制度分析という新しい手法を用いてアプローチしてきた。具体的には、まず田口(2009)において、国際会計基準のジレンマ(パレート最適なコンバージェンスは各国間の「不公平」をもたらし、また逆に各国にとり「公平」なコンバージェンスはパレート非効率な状況をもたらしてしまうこと、後者のみが、長期的に安定した均衡となること)を理論的に明らかにした。次に田口(2011)において、上記の仮説を心理・経済実験により検証し、ある条件下では、そもそもパレート最適でも、「公平」でもない状況(各国が自国基準を採り続け、会計基準を相手に合わせようとしない状況)に各国の行動が収束してしまうという理論の予想とは異なる帰結の可能性(コンバージェンス不成立条件)を明らかにした。

このような検討の中で、研究代表者は、逆に、グローバルな会計基準のコンバージェンスを進めていくには、一体どのような条件が必要となるかという点に注目した。ここで重要になるのは、誰がIFRSに強制力を付与し、またどのようにそれを各国の企業に遵守させるかというエンフォースメントの問題であるが、これは、単に各国間の(ないし国内における)パワーバランスだけの問題ではない。エンフォースメントをより効率的かつ効果的に進めていくためには、実は、各国の会計専門家に対する会計教育の問題が重要となる可能性がある。つまり、会計専門家教育を戦略的に展開していくこと(戦略的会計専門家教育)が、

エンフォースメントの、そしてグローバルな会計基準のコンバージェンスを進めていくことへの1つの近道となる可能性がある。

2. 研究の目的

本研究は、会計専門家教育をグローバルな会計基準のエンフォースメントの1手段と位置づけ、会計基準のコンバージェンスを推進するための会計専門家に対する戦略的な会計教育のあり方を実証的に分析することにする。具体的には、各国(各文化圏)における会計教育制度や会計専門家の意思決定プロセスの異同について分析することで、国際的な会計基準のエンフォースメントをより効率的かつ効果的に進めていくために望ましい戦略的な会計専門家教育のあり方を検証していくことにする。

3. 研究の方法

本研究は、実験比較制度分析という新たな方法を用いることで分析に取り組んでいる。具体的には、会計教育制度の異同や意思決定者の意思決定プロセスの相違を、比較制度分析によりモデル化し、かつ実験棟により得られた定量データで検証する。ここでは、制度や慣習といった「仕組み」を各プレイヤーの「共有予想(ゲームの均衡)」として捉え、その共有予想が、どのように形成され、またどのように変化していくかを具体的に検証していく。このような分析手法は、これまでの会計制度研究では見られなかった新しい手法である。

4. 研究成果

上記の目的を達成するために、研究代表者は、国内外の専門機関にヒアリングやアンケート調査を行い、その実態をゲーム理論でモデル化するとともに、経済実験やアンケート調査により分析した。そこで得られた主な研究成果は以下のとおりである。

(1) 会計教育戦略としては米国型と欧州型が考えられるが、そのいずれも曖昧さ回避、ホールドアップ、モラルハザードといった問題を抱えてしまう恐れがあること。

(2) 会計教育の問題は、実は監査制度の品質管理の問題、特に規制主体のあり方と密接に結びついていること。

(3) それらの問題を克服するカギとして会計大学院が考えられるが、現状とは異なる姿に変えていく必要があること。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

1:(単著) 田口聡志

「社会的ジレンマ問題」としての監査の品質管理体制:エッセンスの再吟味」2015年、『同志社商学』66(6):295-312、査読なし。

2:(単著) 田口聡志

「実験制度会計論序説」2015年、『同志社商学』66(5):333-350、査読なし

3:(単著) 田口聡志

「実験会計学が繋ぐコーポレート・ガバナンスの理論と実務:マクロ会計政策の実験比較制度分析に向けて」2014年、『同志社商学』66(1):251-266、査読なし。

4:(単著) 田口聡志

「会計基準のコンバージェンスにおける「基準作りの基準」問題の位置づけを巡って:相関均衡モデルの再検討」2014年、『同志社商学』65(5):195-217、査読なし。

5:(単著) 田口聡志

「会計教育制度のデザインとジレンマ:グローバル・コンバージェンス問題と会計教

育の実験比較制度分析に向けて」2013年、『同志社商学』65(3):23-58、査読なし。

[学会発表](計7件)

1:(共著) Murakami.U. and S. Taguchi, "Tax compliance with strategic auditors: An experimental study" The 5th international conference of The Japanese Accounting Review, Kobe University, Japan, 2014年12月21日、査読あり、国際会議。

2:(共著) Taguchi and Kamijo, "How do the differences in accounting institutions affect on the development of trust and reciprocity?: An experimental study of a modified trust game." Concurrent Session: Don't You Trust me? Research in Trust and Honesty, the 2014 AAA (American Accounting Association) Annual meeting, Atlanta, USA, August 6, 2014、査読あり、国際会議。

3:(共著) Taguchi and Kamijo, "How do the differences in accounting institutions affect on the development of trust and reciprocity?: An experimental study of a modified trust game" the KAA (Korea Accounting Association) 2014 international conference, Gangwon do, Korea, June 18, 2014、査読あり、国際会議。

4:(共著) Taguchi and Kamijo, "How do the differences in accounting institutions affect on the development of trust and reciprocity?: An experimental study of a modified trust game" the 37th Annual Congress of the EAA (Europe Accounting Association), Tallinn,

Estonia, May 23, 2014、査読あり、国際会議。

5: (共著) Taguchi and Kamijo,

"How does the difference in the perspectives of accounting institutions affect the development of trust and reciprocity?: History, institution, and experiment."

The 4th international conference of The Japanese Accounting Review, Kobe University, Japan, 2013年12月22日、査読あり、国際会議。

6: (共著) Taguchi and Kamijo,

"An Experimental Comparative Institutional Analysis of the Formation of Auditing Systems,"

Research interaction Session, the 2013 AAA (American Accounting Association), Anaheim, CA, USA, August 6, 2013、査読あり、国際会議。

7: (共著) Taguchi and Kamijo,

"An Experimental Comparative Institutional Analysis on Auditing System"

the 2013 Asia-Pacific ESA (Economic Science Association) conference, Tokyo, Japan, February 17, 2013、査読あり、国際会議。

〔図書〕(計1件)

1:(著書、単著) 田口聡志

『実験制度会計論 -未来の会計をデザインする-』2015年、中央経済社、全266頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

6.研究組織

(1)研究代表者

田口聡志 (TAGUCHI, Satoshi)

同志社大学・商学部・教授

研究者番号: 70338234

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし